

◆年頭挨拶◆

副病院長

船津 俊宏



(兼)臨床研修副センター長 心臓・血管センター長
患者サポートセンター長 臨床工学・技術センター長

新年明けましておめでとーございませう

昨年の元旦は、新年の清々しさに浸る間もなく、能登地方を震源とする大地震が襲い、当該地域では多くの被災者が出ました。その後も彼の地では、9月に豪雨、11月には2度目の震災と度重なる災害が襲いました。能登地方の皆様には心よりお見舞いを申し上げます。

さて、昨年当院では、一昨年末に導入した手術用ロボット「ダビンチ」に続いて、第7室目の手術室としてハイブリッド手術室が完備いたしました。入念な準備期間を経て、いよいよ今年早々には、そのハイブリッド手術室が備わっていないと実施できなかった、経カテーテル大動脈弁置換術を開始する予定です(特集リーフレットをご覧ください)。これにより、開胸や心停止を要せずに大動脈弁置換が実施できます。これまで当該地域で対応できなかった、高齢者、超高齢者の大動脈弁疾患を、他地域に足を運んでいただくことなく、当院で治療にあたることは何よりの喜びです。今年も引き続き、泉佐野泉州地域における医療の最後の砦として、地域に信頼され続けるセンターを目指して参ります。今年一年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

MyHero (マイヒーロー)

幼い頃のヒーローといえば、戦闘もの子供向けテレビのキャラクターといったところですが、成人してからのヒーローと言われてもなかなか思い当たりません。さしずめ、自身の歩むべき道を指し示してくれる先達ということになるでしょうか。これまでクラブ活動などで経験してきたスポーツでは、それぞれで目標にする先輩がおり、また外科医の自分には外科医の何たるかを体現してくれる上級医がおられました。彼らが折々で進むべき道を示してくれ、今日の自分があるように思います。

◆年頭挨拶◆

内部統制本部長

藤原 義弘



新年あけましておめでとーございませう

令和6年能登半島地震が発生し一年が経ちましたが、今なお大変な状況にある方々の一日も早いご復興をお祈り致します。また、今年は阪神淡路大震災の発生から30年の年になります。しかしながら、地震等の災害はいつどこで発生するかわかりません。その時に備え、我々は準備をしておかなければなりません。当院は、泉州地域の基幹病院であり、災害拠点病院でもあります。地域医療や災害医療に対しても病院一丸となって取り組んでいます。

コロナ禍も明け、通常の日常生活を取り戻し、当院が立地するりんくうタウンでも多くのインバウンド観光客が訪れるようになり活気が戻ってきました。また、休日には、泉佐野市主催のイベント等で多くの人が訪れ、コロナ禍前を超える程の賑やかさを感じます。本年4月には「2025大阪・関西万博」が開催され、さらに多くの観光客が見込まれます。大阪での万博は二度目となり、私自身も当時の万博会場で写っている写真を見ますが、当時の記憶は全くございません。今度の万博は、これからの人生のため何かを見つけていきたいと思ひます。本年もどうぞよろしくお願ひ致します。

MyHero (マイヒーロー)

「坂本龍馬」龍馬が姉に書いた手紙の一文に「日本を今一度せんたくいたし申候」という言葉があります。今のダメな日本を変えたい。その中で、自分ができることをやりたいという龍馬の思いが、当時、高校1年生であった自分の中で印象に残っており、将来、自分も龍馬のような存在になりたいと思ひました。これからも志をもって、少しでも龍馬に近づけるよう取り組んでいきたいです。

◆年頭挨拶◆

診療局長

荻田 和秀



(兼)産婦人科部長 薬剤管理センター長
周産期センター産科医療センター長 医療安全管理室長

新年あけましておめでとーございませう

私がりんくう総合医療センターに着任して17年が経ちました。この間の様々な変化を眺めながら日々この地域の周産期医療を存続させるにはどうしたらよいかと考えてまいりました。

私が着任した年に鳴り物入りで発売されたのが初代 iPhone でした。重く、画面も小さく、すぐ電池が切れ、動画などをやりとりするのが精一杯といった有様でした。それが今や軽く大きく電池も長持ちになりました。それ以上に何でも瞬時に検索でき、AIに話しかければ何でも答えてくれます。よく外來で「なにか質問はありますか？」とおたずねしたとき、自分が医学生だった頃以上のレベルの質問を投げかけて来られる方がいます。いきおいこちらも日々スマホで最新の医療情報を収集し整理することになり、これはこれで大変便利かつ勉強になる時代になったものだと感心している次第です。しかし、スマホから得られる情報はネットに転がっているそれこそ玉石混交の情報ですし、我々はスマホで得られる情報のみで診療をするわけではありません。

体調のお悪い時でも健診の時にでも的確な情報をぬくもりをもってお伝えしたいなと考えています。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

MyHero (マイヒーロー)

Alfred Russel Wallace(1823-1913)ダーウィンに先駆けて進化論を発見した在野の生物学者です。別名「ダーウィンに消された男」どんな仕事にもアマチュア、プロフェッショナル、アーティストがいますが、ダーウィンがアーティストなら彼はプロフェッショナルと言えます、自身のできることを地道にやり抜き歴史に消えていった最高にカッコイイ学者です。とはいえ「ウォレス効果」や「ウォレス線」など彼の名前を冠した学術用語をダーウィン本人が使っており科学上の美談とされています。ダーウィンもカッコイイ!

◆年頭挨拶◆

大阪府泉州救命救急センター長

中尾 彰太



(兼)Acute care surgeryセンター長 重症外傷センター長

謹んで新春のお慶びを申し上げます

医師目線では恐縮ですが、昨年の振り返りですと、我々にとって最も大きな変化は、医師の働き方改革の新制度が施行されたことです。この制度は、医師の過重労働を防止することを目的としており、同時に、医療提供体制に一定の制約が課されることで、これまでと同じ質と量の医療提供が困難になるリスクを伴うものでもあります。

こうした課題に対応すべく、当センターでは新制度の施行に先駆け、数年前から試行錯誤を重ねてまいりました。タスクシフトの推進や業務の効率化・合理化を図るべく、医師を含む全職種が連携し、さまざまな取り組みを進めてまいりました。その結果、医療の質を維持しながらも労働環境を改善し、働きやすい職場を実現しつつあります。これにより若手医師が集う魅力的な職場となり、患者さんへ質の高い医療を提供し続けられていると自負しております。

私たちは、どのような状況においても、地域の皆様の命と健康を守る最後の砦であるという使命を胸に、常に質の高い救急医療を提供するため、これからも精進してまいります。本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

MyHero (マイヒーロー)

私のヒーローは、青山学院大学陸上競技部の原晋監督です。選手一人ひとりを大切に、「楽しく勝つ」という指導哲学のもと、青山学院大学を駅伝の名門へと導いた立役者です。個性的で実践的な指導法、笑顔をやささない姿勢、そして逆境にも屈しない情熱と冷静な戦略には心から敬服しています。私も原監督のように、共に戦うスタッフを大切にしながら、チーム全体を的確に導ける管理者を目指したいと考えています。

◆年頭挨拶◆

感染症センター長

倭 正也



(兼)診療局長 内科統括 総合内科 感染症内科部長
臨床研修センター長 院内感染対策室長 産業医

謹んで新春のお慶びを申し上げます

地域の皆様方には日頃から感染対策にご尽力いただき深く御礼申し上げます。特に、当院内でのマスクの着用、手洗い等の手指衛生、面会時の体温測定など、お手数、ご不便をお掛けしており、ご協力に大変感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ、マイコプラズマ等、この冬にも多くの感染症が流行しております。65歳以上あるいは基礎疾患のある方で医学的にワクチン接種可能な方におかれましては、新型コロナウィルス感染症、インフルエンザのワクチン接種をご検討いただけましたら幸いです。

さて、本年4月13日からは大阪・関西万博が開催され、国内のみならず海外からも多くの方々がお越しになられます。この泉州地域は関西国際空港に隣接しており、海外からの感染症が真っ先に流入される立地環境にございます。その中には、呼吸器感染症のみならず、スーパー耐性菌も含まれます。今後とも当院職員一丸となつて泉州地域および院内の感染対策・感染症診療に取り組んでまいり所存でございます。皆様方も日常の感染対策にご留意いただき、体調管理に十分にお気をつけていただき、と思ひます。本年も引き続き何卒よろしくお願ひ申し上げます。

MyHero (マイヒーロー)

子供の頃にテレビで見た「遠山の金さん」の杉原太郎さんでしょうか。町人に溶け込む人情味あふれる姿、そして勧善懲悪ぶりに魅了されていました。現在では被災地でのボランティア活動にご尽力され、「売名」、「偽善」といった声に対して「ああ、偽善で売名ですよ」「私のことをそういうふうにおっしゃる方々も、ぜひ自腹で数十億出して名前を売ったらいいですよ」と黙らせる、なんとも男前の姿に感服しております。

◆年頭挨拶◆

事務局長

松下 庄一



新年明けましておめでとーございませう

早いもので、昨年の元旦に石川県能登半島で最大震度7の大地震が発生してから、1年が経過しました。能登半島では9月にも記録的な豪雨に見舞われ、甚大な二重被害を受けました。改めて自然の恐ろしさと理不尽さを強く感じながら、被災地の一日も早い復興、そして、本年が穏やかに輝かしい1年となりますよう願ひしています。

さて、今年には「2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)」が大阪・夢洲で開催されます。2005年の「愛・地球博」以来、20年ぶりに日本で開催される国際博覧会で、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、4月13日からの半年間、地球規模の様々な課題に取り組むために世界中からたくさんの人やモノが集まるイベントです。期間中は約2,820万人、うち海外から約350万人の来場者が見込まれており、この「大阪・関西万博」が大阪、関西、そして日本の成長を持続させる起爆剤になることを大いに期待しています。併せて、来場者のうち関西国際空港を利用する人もたくさんおられますので、この機会に当センターが立地する泉佐野市、とりわけりんくうタウンにも立ち寄っていただき、まちの活性化につながればと思ひます。「大阪・関西万博」の成功を期待しながら、今年も患者サービスの向上に努め、患者主体のチーム医療を実践し地域医療に貢献してまいります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

MyHero (マイヒーロー)

同じ大阪で1970年に開催されました「大阪万博(EXPO'70)」は、今でも語り継がれています。当時、幼少の私は家族に連れられ、会場に行ったらいいのですが、ほとんど記憶がありません。しかし、その一方で、当時の私のヒーローは間違いなく「ウルトラマン」だったと記憶しています。そして、今、思い浮かぶのは、米大リーグ・ドジャースの「大谷選手」です。私にとって、大谷選手は、ワールドチャンピオンという夢を実現するために、シーズンを通してコンスタントに活躍し続け、最後に夢を勝ち取ったという、まさに有言実行の「すごい人」「カッコいい人」という印象を持っています。